

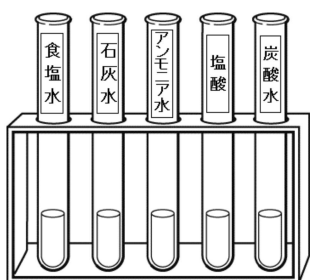
わかる・できる理科の授業 ～まとめや振り返りの活動を実践に行う～

なかなか上手に授業のまとめや振り返りをすることができません。何かポイントがありますか？



小学校6年生「水溶液にとけている物」を例に、まとめや振り返りのポイントを紹介します。

よりよいまとめや振り返りのポイント 「水溶液にとけている物」(小学校6年)



めあて

5種類の水溶液はどんなにおいがるだろうか。蒸発させると何が残るだろうか。

ポイント1

子どもの言葉を使い、めあてと整合性のあるまとめを行う。



授業の最後に、めあてと整合性のあるまとめを行います。その際、教師が一方的にまとめるのではなく、子どもの言葉を使ってまとめることが大切です。



水溶液のにおいはどうでしたか？ 蒸発させると何が残りましたか？



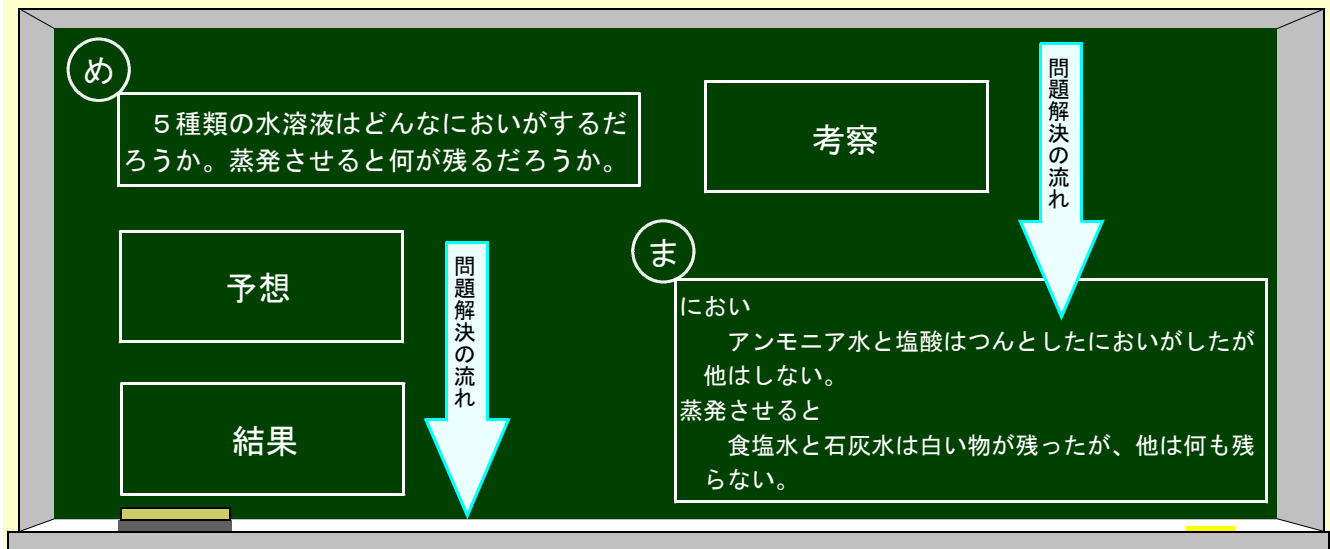
アンモニア水と塩酸は、つんとしたにおいがしました。他は、においがしませんでした。



食塩水と石灰水は、白い物が残りました。その他は何も残りませんでした。

ポイント 2

板書を構造化する。



黒板の左上に「めあて」を、右下に子どもの言葉を使った「まとめ」を示し、「めあて→予想→結果→考察→まとめ」という問題解決の流れを示し、論理的に思考する力を育むとともに、本時の振り返りも行うことができます。

ポイント 3

振り返りの時間に「理科日記」を活用する。

理科日記を書く三つのポイント

- ① 今日の学習で分かったことは何か。
- ② 今日の学習内容と日常生活との関連は何か。
- ③ さらにどんな学習がしたいか。



「理科日記」を三つのポイントで書くことで、児童は、「日常生活との関連」や「発展的課題」を意識しながら学習に取り組めます。そして、さらに実感を伴った理解を深めることができます。

毎時間あるいは単元ごとの「まとめや振り返り」の時間をしっかり確保することが大切です。

